

2019.12
No. 44

佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

病院長あいさつ



病院長 山下 秀一

平成31年4月から、2期目の病院長を務めることになりました。

日頃より佐賀大学医学部附属病院をご支援いただき感謝申し上げます。『患者・医療人に選ばれる病院を目指して』という病院理念と、「地域医療への貢献」、「良き医療人の養成」、「高度医療技術の開発研究」という3つの病院目標を常に念頭に置いて、職員全員が一丸となって日々の診療に励んでおります。

私どもは、佐賀県における高度急性期医療の最後の砦として、県民の皆様が心筋梗塞、脳卒中、各種悪性腫瘍などの命に関わる病気に罹患してしまつた際に、全力を尽くして診療し、その支えとなることをお約束し、そのために、医療技術の向上を目指して切磋琢磨いたしております。また、これを可能とするための最新の設備を整備することにも尽力いたしております。

また、「良き医療人の養成」は本院の病院目標の一つであり、専門医育成は本院の最大の使命の一つです。佐賀県内の多くの病院と協力体制

創薬科学講座の紹介



教授 木村 晋也

創薬科学講座は大原薬品工業株式会社の寄附講座として平成29年4月に開講されました。本講座のミッションは、DNAのメチル化を標的にした新しい薬を創ることです。DNAはアデニン(A)、チミン(T)、グアニン(G)、シトシン(C)という4種類の塩基が鎖状に繋がった分子で、生命の「設計図」として生物の遺伝情報を保存しております。このDNAの塩基にメチル基が付加されることをDNAのメチル化と呼びます。現在までに、がんを含め様々な病

を密接に組み、専門医制度のために地域医療に過度な負担がかからないよう十分に工夫し、優れた医師をしっかりと育成してまいります。人材育成こそが佐賀県の医療の質を向上させ、県民の健康を守る最大の決め手と考えています。

さらに、医療経済も医療の質を保つためには決して無視できません。医療の質を保つためには、経営状況が健全であることは必須の条件です。限られた医療資源を有効に活用し、大学病院で治療することが望まれる高度急性期医療の必要な患者さんもしっかりと診療すること、大学病院の運営を健全に行つてまいります。

最後になりますが、大学病院の運営の中で最も重要なことは、患者さんと医療者の人間同士の暖かいふれあいと思ひやりであると考えております。佐賀大学医学部附属病院は、来院していただいた患者さんに心から満足していただくよう、職員一同一丸となって努力してまいります。

このメチル化の異常が報告されております。私どもの研究室では、メチル基の異常な蓄積を除去して、正常な状態に戻す薬の開発を行っております。現在は、シャーレの中で培養した細胞やマウスに対する薬の効果を見ておりますが、患者さんに新しい薬としてお届けできるようにスタッフ一同、日夜研究活動に励んでおります。皆さま、創薬科学講座をどうぞよろしくお願いいたします。

病院再整備からのお知らせ



副病院長(再整備担当) 倉富勇一郎

平成23年度から本院が進めている病院再整備事業は、平成30年度より外来診療棟の改修工事を開始してまいりました。この度、令和元年9月に外来診療棟正面外壁、正面玄関出入口及び総合外来の改修が完了し、正面玄関出入口は9月30日から、総合外来は10月7日からそれぞれ運用を開始しました。

外来診療棟正面の外壁は、すでに再整備が完了した病棟等と同じように、先進性を表す濁手の白磁色のタイルを採用し、ただ1か所アースカラーとなつていた病院の建物が白色で統一されました。また、全面ガラス張りとなった外来棟正面には、夏の直射日光を遮る機能性と、佐賀を象徴するモチーフとして「佐賀錦」をイメージしたシャンパンゴールド色のルーバーを採用しました。モチーフとした「佐賀錦」に使われている菱形などの絶えず繰り返される幾何学文様は、長寿や吉祥を象徴するものとされており、来院される方々の健康の回復を使命とする本院

にふさわしいものとなっております。日中に外来にお見えになる患者さんにはあまり御覧になる機会はないと思いますが、夜間にはライトアップされ美しいデザインがより浮き上がって見えます。また、10月7日から運用を開始した総合外来は新しい正面玄関を入って右手に位置しています。完成したばかりの広く、明るい、清潔なスペースで日々診療を行っております。

11月からは外来診療棟2階(小児科・産婦人科・泌尿器科)及び3階(整形外科・形成外科)の各診察室等が、外来診療棟1階(薬剤部跡地及び旧総合外来エリア)へ移転し、診療を開始し、さらに、令和2年2月頃には外来診療棟3階(神経内科・精神神経科・脳神経外科)が外来診療棟1階へ移転し、来年11月頃の完成を目指して外来診療棟2階、3階の西側エリアを約1年間かけて改修する予定です。引き続き院内の改修工事において、騒音や振動、仮間仕切りによる通行の制限等、皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力を何卒宜しくお願い致します。

これからも、佐賀県唯一の大学病院として、佐賀県の医療の「最後の砦」としての使命を果たすよう、職員一丸となって努力してまいります。



▲外来新棟完成予定図



▲正面玄関と佐賀錦をモチーフにしたルーバー

診療科紹介 精神神経科



教授 門司 晃

精神神経科は、教授、准教授をはじめ計12名のスタッフで診療、研究、教育に取り組んでおります。当院は県内で唯一の精神科病床を有する総合病院であり、精神疾患を持ち手術や専門的な内科治療を必要とする一般病床では入院が困難な患者さんを積極的に受け入れています。また、難治性うつ病患者さんに対して反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）を行っています。

病棟は24床（個室8床）あり、認知症、うつ病・双極性障害などの気分障害、不安障害などの患者さんが入院しています。患者さんが季節を感じ気分転換になるように、看護部を中心としてレクリエーションを年に4回（七夕会、クリスマス会など）行っています。外来は週3日（火、木、金曜日）で午前9時から午後5時まで開設しております。（初診には医療機関からの紹介状が必要です。）また、当院は診療科間の垣根が低く、他科と連携して診療を進めるコンサルテーション・リエゾン精神医学への取り組みが特色で、常時2名の精神科医が他科からの相談に応じています。さらに、認知症については、神経内科と共同で認知症疾患医療センターで診察を行っています。

研究面では、「高齢者の精神的健康を維持する」をテーマとして「伊万里市黒川町での高齢者の精神的健康に関する長期疫学研究（黒川町研究）」および「認知症治療薬などの向精神薬を用いた薬理学研究」を進めているほか、「rTMS」の効果を検討し、作用機序を解明するための研究」にも取り組んでおります。学位を取得した医局員がさらに増えていくことを目標に、精神科医療に役立つ研究を続けていきます。

皆さま、当科を今後ともどうぞよろしく願っています。



▲精神神経科のスタッフ

頭蓋形状矯正ヘルメット治療



形成外科 診療教授 上村 哲司

顔と頭のかたち外来（形成外科）では、生まれて3ヶ月以上12ヶ月未満で一定の条件を満たす乳児を対象に、頭蓋形状誘導ヘルメット（下図参照）による治療を本年6月から開始しました。

一定の条件とは、頭位性斜頭（向き癖による頭の変形）であり、頭蓋早期癒合症や水頭症等の病的な疾患を原因とする頭蓋変形を除外されたものです。頭位性斜頭とは、外圧によって生じたものであり、原因の多くは生まれた後の向き癖によるものです。向き癖によりうしろあたまに平坦な部分ができる、首すわりして、向き癖が消失しても、同じ部分に荷重がかかり、変形が改善しないと考えられています。見た目として、片側のうしろあたまの扁平化、耳



▲頭蓋形状誘導ヘルメット

の位置の左右差、さらに高度になると頭のてっぺんからみると平行四辺形を呈します。多くは小児科医・産科医から「自然に治るものである」との説明を受け、市販のドーナツ枕などの使用が勧められるなどされていましたが、大人になっても変形を残してコンプレックスを持たれている方も多いためです。

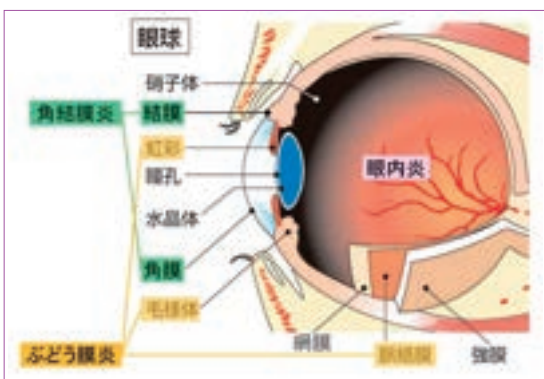
もし、あなたのお子様、お孫様で頭のかたちをご心配のかたは、ご相談ください。

ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断（PCR法）導入



眼科 講師 中尾 功
教授 江内田 寛

ウイルスは角膜内皮炎、ぶどう膜炎などを生じることが知られており、急激な経過を取り失明に至るケースもあります。ウイルスは、それぞれ有効な薬が異なるため、正確かつ迅速な診断法が必要です。診断には、注射器や手術で得た眼の中の液などを用いますが、今までの検査方法は検査に時間がかかり、結果が出るまでに1〜2週間程度かかっていました。また、一度に1〜3種類のウイルスしか検査できませんでした。平成25年に始まった新しい診断方法（ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患



に対する迅速診断（PCR法）は、わずかな検体でも様々なウイルスについて最大9項目を同時に、短時間で診断ができ、診断や治療効果の判定に役立ちます。検体の採取方法がより簡便になり、検体の採取量も減ることで、患者さんへの負担も軽くなっています。当院では令和元年7月1日より先進医療として実施可能になりました。新しい検査方法を用いて原因ウイルスを早期に特定しやすくなることで、難治性ウイルス眼感染症疾患のより良い治療につなげていきたいと考えています。

佐賀大学医学部附属病院 連携病院長会議



地域医療連携室長 野口 満

佐賀大学医学部附属病院連携病院長会議が、10月26日（土）、ホテルグランデはがくで開催されました。本会議は、円滑で質の高い医療を地域に提供するため、当院と県内の各病院・診療所との連携を深めるため毎年開催されています。開催に際して、山下秀一病院長、県医師会の池田秀夫会長からよりよい連携を目指すべくご挨拶を頂き会議が始まりました。

今回の会議では、大学病院への紹介、大

連携病院紹介

ひらまつ病院

【病院の紹介】 ひらまつ病院は、開院以来、「地域密着」を使命として展開してまいりました。これも、地域の皆様や職員各位のおかげと感謝しております。21世紀を機に、病院を医療法人化し、「理念」を掲げ全職員一丸となり地域医療に取り組んでおります。

また、現在は医療の分野も高度な技術、新薬や情報公開など、めざましい進展があります。しかしながら、現在必要とされていることは高度な技術等はもちろんのこと、「笑顔」「和」「思いやり」を持つて患者様に接することが、病院に最も必要なものではないかと思っております。

2015年に新築移転した病院は190床あり、そのうちハイケアユニット病床を有する急性期と回復期病棟と長期入院病棟を有する病院として新たな出発となります。開業当時より、ひらまつ病院があつてよかったと思われるような病院を目指してまいりましたが、新病院ではそれが実現できるような予感がしております。

【佐賀大学医学部附属病院との連携の状況】 日頃より、佐賀大学医学部附属病院には

学病院からの逆紹介が年々増加しており、順調に地域連携が行われていることが示されました。また、大学病院からの情報提供として、オンコパネルによるゲノム医療、小児外科、光学医療診療部の診療等が紹介されました。本会議は、大学病院職員と連携病院の先生方が一堂に会する貴重な機会です、時間の許す限り情報交換が行われました。

理事長 平松 克輝

大変多くの患者様を、迅速に受け入れていただいております。また、特に回復期リハビリ目的で脳神経外科や神経内科より中枢疾患患者さん、整形外科より人工関節置換術後や骨折後の患者さんのご紹介をいただいております。職員一同心より感謝申し上げますと共に、なお一層佐賀大学医学部附属病院との連携を深めながら、迅速な対応に心がけ、地域医療に貢献していきたいと考えております。今後ともご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

